

令和 3 年度

「運営に関する計画」

大阪市立 古市 小学校

令和 3 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

思考を能動的に働かせて主体的に学習する力などの学力に着実な伸びが感じられるが、語彙力や読解力、表現力などが不十分で、テストなどで十分に力を表現することができない児童が多い。継続した多くの取り組みにより児童の規範意識は大きく向上しているが、自尊感情の向上は未だ十分ではない。授業や体育的な活動の工夫により児童の体力は徐々に向上している。児童・保護者の健康な食に対する意識は高いが、家庭での生活習慣に課題がある児童が少なくない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～令和3年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 毎年度末の校内調査において、不登校になる児童の割合を毎年、前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を平成28年度より5%向上させる。（施策2 道徳心・社会性の育成）
- 令和3年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を90%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、平成28年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成28年度より毎年1ポイント減少させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成28年度より毎年1ポイント増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成28年度より増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録で、全国平均を上回る児童を平成28年度より毎年増やす。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 令和3年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校園の年度目標

- 令和3年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を70%以上にする。（施策2 道徳心・社会性の育成）
- 令和3年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を85%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和3年度の校内調査において、「自分からあいさつをしている」と答える児童を85%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より0.5m向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

学校園の年度目標

- 令和3年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を前年度と同じ9割を維持する。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 令和3年度の校内調査において、ソフトボール投げを5月と10月に行い2回目の平均の記録を、1回目より、0.5m向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 学習に対する興味・関心を高めるために、教科の学習に関連した体験学習を取り入れる。

3 本年度の自己評価結果の総括

学級担任としては、経年調査の結果で学力面の判断を行いたい。

生活面では、学校園の年度目標3点は全て達成した。

校務分掌の担当の指導も達成することができた。

今年度は運営に関する計画を意識しながら指導できた。自分自身まだまだ課題が残るが来年度はそれをいかして取り組みたい。

学校アンケートや日々の取り組みから考えると目標はおおむね達席できたといえる。

学力に関しては、全国大会への取り組みを通して授業改善がすすみ、対話を通した学びにつながったのではないだろうか。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 （施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を70%以上にする。（施策2 道徳心・社会性の育成） ○ 令和3年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を85%以上にする（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和3年度の校内調査において、「自分からあいさつをしている」と答える児童を85%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。指導の経過は記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。</p> <p>また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。 ・学年会等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報共有する。 ・「いじめアンケート」を毎月行う。 	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童・教職員ともに、学校生活の様々な場面でのきまりが意識できるよう、校内の掲示物を工夫する。</p> <p>特に、自発的にあいさつができるようにするための手立てとして、全校でのあいさつ週間の取り組みや、具体的な生活・学習場面を設定したあいさつの指導を行う。また、身の回りの物を大切にできるようにするための手立てとして、具体的に</p>	B

<p>「くつやスリッパをそろえる」「ろうか・階段で歩いて右側を通る」「自分のものやみんなで使うものを大切にする」ことを中心に指導を進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護当番日誌や生活指導連絡会、各アンケートでの自己評価などにより達成状況の確認を行う。 	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>取組内容①をもとに、暴力行為を複数回行う児童を把握し、暴力行為に至る原因や経過などを丁寧に聞き取る。当該児童の思考・行動傾向を把握するとともに、教職員・保護者・スクールカウンセラーなどと連携を取りながら、行動の改善につなげる。</p> <p>また、「命を大切にする」「いじめをゆるさない」という強い心を育てるため、学年内で課題を明確にし、人権教育の学習を充実させる。道徳推進教諭を中心に、長期休業中の研修を計画・実施するとともに、学年内で教材検討や授業交流等を行うなどして、道徳教育の指導方法の向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。 ・週1回の学年会や日々の活動等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。 ・学年内で授業交流等を行い、学習参観では全学級で年1回の授業公開を行い、保護者の道徳科に関する理解充実を図る。 ・年1回の全体研修の実施と校外研修への積極的な参加、学年内の教材検討や授業交流により、道徳教育の指導方法の更なる工夫を行う。 	B
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>新たな不登校児童の割合を減らすため、欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、学年・管理職と情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への指導が必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、月1回の「いじめアンケート」をはじめ、聞き取り等、事象に応じた的確な取り組みを行う。</p> <p>指標</p> <p>月ごとに3日以上、累積1学期で10日、2学期で20日以上欠席した児童については、生活指導連絡会で情報を教職員で共有し、「児童理解・教育支援シート」を作成、活用して登校できるように継続的に指導を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実践する。「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいところ見つけ」などの活動を各学年で取り組むとともに、芸術鑑賞会や、委員会活動で花を育てることを通して、豊かな心の育成を図る。</p> <p>指標</p> <p>生活指導連絡会の記録での指導者からの評価や、各アンケートでの自己評価、児童同士の相互評価などにより達成状況の確認を行う。</p>	B
<p>取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童の防災意識を高め、日常生活に生かせるように、各学年で防災・減災について学習する取り組みを行う。</p> <p>指標</p> <p>各学年とも年1回以上、防災に関する取り組みを行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①いじめや不登校に対する取り組みをコツコツ続けてきたことで、いじめや不登校は少なく安定した教育活動ができている。生活指導部会も定期的に行われて共通理解もできている。
- ②少しずつではあるが、自発的に挨拶をする児童は増えているがまだ少ない。きまりに関してもくつが靴箱から出ていることがあるなど、学級によって指導が違いうように感じられる。
「自分からあいさつをしている」 低 89% 高 83%
経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」 3 年 97% 4 年 91% 5 年 85% 6 年 98%
来年度も継続して学校全体での取り組みは必要。
- ③コロナ禍で参観ができていないことはあるが、道徳の授業力の向上ができた 1 年だとは思わない。
- ④コロナ不安で長期にわたり出席停止している児童が多い。引き継ぎをしっかりとっていく必要がある。児童理解・教育支援シートやスクリーニングシートの活用を全員ができていない。
- ⑤感染対策でできないこともあったがコロナ禍でもできることを考えて実践できていた。
(区役所や地域の方とのビデオなどでも交流)
「自分のよいところ」は高学年が低かった。異学年交流が少なかったからではないか。
「自分にはよいところがあると思いますか」 低 81% 高 62%
- ⑥防災意識が高いことは非常によいと思う。より高めるためにも来年度も地域防災リーダーの方に来ていただきたい。

次年度への改善点

①いじめアンケートをパソコンで入力してから、アンケートにいじめがあったと記入する児童がいなかった。PC の入力が慣れず、入力できなかった児童がいなかったか少し気になる→児童の PC 操作慣れが必要。

いじめアンケートのデータ化。R4 年度は、高学年は毎月タブレットで入力、低学年は紙に記入。

②あいさつへの取り組みが不十分

(1)あいさつ週間の見直し

→児童主体の取り組み、あいさつレンジャーだけでなく。学級学年などの取り組みをポスターや動画での呼びかけ。あいさつ名人カードの用意、ふりかえりに利用。

(2)看護当番の徹底 or 廃止

→玄関で立つ先生が固定化、立っていない場合も多々、根本的な見直しが必要かと

③今年度もコロナの影響で参観自体を実施できていないため、道徳の授業公開もできていない。保護者への道徳授業に関する理解の面で考えたとき、参観できない状況が続くのであれば参観以外で見せる指標を考える必要がある。(研修に関することや研究授業に関することの指標)

また、参観の実施方法も別の方法があるなら考えていく必要がある。(オンライン配信など)

④コロナでの不安で登校できず不登校気味になりかけた子もいたので、次年度はそういった子の引き継ぎもしっかりしていけないといけない。

スクリーニングシートを活用していくために、全教職員でスクリーニング会議を行っていく必要がある。

⑤たてわり班活動や異学年交流は行っていきたい。Teams や silex を活用し、全学年でなくても交流ができないか。

毎年「自分のよいところ」の数値が上がらないので、内容を分析して、自尊感情を高められるような取り組みを考えていく必要がある。

⑥来年度こそは防災デーをしたい。

訓練開始時に運動場にまだ数名の児童がいたが、教室からの避難だけでなく、特別教室や運動場など様々な場所から避難する方法も教えていく必要がある。

大災害はいつくるか分からないので、教職員が常に危機感をもち、子どもたちにも早めに訓練できるように計画していく必要がある。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より<u>1ポイント減少</u>させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より<u>1ポイント増加</u>させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 令和3年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より0.5m向上させる。 （施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を前年度と同じ9割を維持する。 （施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） ○ 令和3年度の校内調査において、ソフトボール投げを5月と10月に行い2回目の平均の記録を、1回目より、0.5m向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） ○ 学習に対する興味・関心を高めるために、教科の学習に関連した体験学習を取り入れる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で実態調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 経年調査大阪市平均7割未満の児童、平均2割以上の児童 ○ 習熟度別指導、支援 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 7割未満の児童には習熟度別授業で手厚く指導。休み時間などに習熟度別担当者と担任が連携して補習を行う。 	B

<p>◇ 2割以上の児童に対しては、家庭学習や授業中においてプリントなどを使った発展問題への取り組みができるように教材を準備する。（自主的に取り組める環境をつくる。）</p> <p>○ 朝の学習において基礎的な内容の反復学習を行う。</p> <p>◇ 漢字・計算ドリル、付属プリント、</p> <p>○ 読書の習慣を付ける。</p> <p>◇ 読書タイム、朝の学習など。</p> <p>○ タブレットドリルで、習熟度別教材への取り組み（2学期以降）</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の小学校経年調査における正答率が市の平均の7割に満たない児童を学校全体の6%未満、大阪市平均に対して2割以上上回る児童の割合36%以上にする。 ・小学校学力経年調査における標準化得点で次のポイントを上回る。 <p>R3年度 6年生：102.8%、5年生：102.5%、 4年生：100.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テストで平均の向上。 ・習熟度別教材の作成と学年内や低・中・高学年で実践を定期的に交流する。 ・わくわくコンビーの学習教材などを定期的に活用する。 ・3年生以上の学年で体験的な学習を年に1回以上行う。 	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 低学年から書くことへの抵抗を減らす。</p> <p>○ 話し合いの深まりを感じさせる振り返りを行う。</p> <p>○ 発表の形式の多様化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ペア、グループ、少人数 ◆ タブレット、ホワイトボード ◆ 発表の機会を設ける、児童観での相互参観・評価 <p>○ 評価方法の工夫により「わかる」「できる」を子どもが実感できるようにする。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が研究授業もしくは公開授業を年に1回以上行う。（振り返りや発表、交流に関する実践を交流する。） ・令和3年度の小学校経年調査におけるアンケート調査の振り返りや発表に関する項目の肯定的な回答を向上させる。 	
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <p>○体力向上アクションプランのもと、体育の授業を実施し、運動が好きになる授業づくりに努める。</p> <p>○運動カードの活用など、体育の授業をはじめとする学校生活の中（外遊び等）で、運動能力、体力の向上に取り組む。</p> <p>○全学年、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの測定を年に2回実施する。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「運動が好きですか」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 ・ソフトボール投げを5月と10月に行い2回目の平均の記録を、1回目より、0.5m向上させる。 	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <p>○保健指導や栄養指導といった基本的な生活習慣の育成の取り組みを通して、児童の健康保持増進をはかる。</p>	B

<p>○手洗い・うがいの大切さを知り、自ら行う習慣をつけられるようにする。</p> <p>○「ほけんだより」や「食育つうしん」などの配布を通して、家庭との連携、啓発を行っていく。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康週間を学期に 1 回、健康チェックの日を月に一回実施し、よりよい健康習慣が身につく児童をふやす。 ・校内アンケートにおける「手洗い、うがいをし、健康に気を付けていますか。」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。 ・年 2 回、各学級で栄養教諭が食育を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 令和 3 年度の小学校経年調査における正答率が市の平均の 7 割に満たない児童を学校全体の 6 %未満、大阪市平均に対して 2 割以上上回る児童の割合 36%以上にする。</p> <p>R3 年 12 月実施経年調査結果</p> <p>7 割に満たない児童 6 年生 4 %、5 年生 %、4 年生 16%、3 年生 %</p> <p>2 割以上上回る児童 6 年生 46% (4 科目)、5 年生 %、4 年生 37%、3 年生 %</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点で次のポイントを上回る。</p> <p>R3 年度目標値</p> <p>6 年生 102.8%、5 年生 102.5%、4 年生 100.4%</p> <p>R3 年 12 月実施経年調査結果</p> <p>6 年生 104.4%、5 年生 101.0%、4 年生 101.5%、3 年生 102.7%</p> <p>○ 基礎学力向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字ドリルや計算ドリル、付属のプリントを朝の学習や授業始めの 5 分間など日々の学習活動に計画的に組み込み、学力の定着を図った。 ・ 高学年では、学級 2 分割の習熟度別学習や少人数指導を、年間を通じて行ったことで、学習に対する意欲が向上した。 ・ 学習に課題が見られえる児童に対しては、業間や放課後を活用して個別指導を行った。 ・ 単元末には、「わくわくコンビー」のプリントに取り組み、学習の知識の定着を行った。また、経年調査の過去問題にも取り組み、問題の解答に慣れるような取り組みも行うことができた。 ・ 低学年では、書く活動を教科の学習に取り入れたり、読み聞かせ日常的に行ったりなどして、学力の向上を図った。 	
<p>取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 全教職員が研究授業もしくは公開授業を年に 1 回以上行う。(振り返りや発表、交流に関する実践を交流する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年で研究の視点を決めて研究授業や討議会に取り組んだことで、授業改善が図られ、子どもの学力の向上につながった。特に、授業最後を書く「振り返り」では、内容の深まりが見られるようになり、学習内容をそれまでの既習事項や生活と結び付けて考えられるようになってきた。 <p>○ 令和 3 年度の小学校経年調査におけるアンケート調査の振り返りや発表に関する項目の肯定的な回答を向上させる。</p>	

R3 年度後期学校アンケート結果

②（低学年）学習で自分の思いを持ったり意見を発表したりしている。

②（高学年）学習で自分の考えをまとめたり、伝わるように工夫して意見を発表したりしている。

低 78.6%→81.1% 高 65.5% →70.1%

④（低学年）自分の思いを話したり友達の思いを聞いたりすることで学習していることがもっとわかるようになった。

④（高学年）自分の思いを話したり友達の思いを聞いたりすることで学習内容がよりわかるようになった。

低 87.8%→90.7% 高 84.1%→86.8%

* 経年調査の振り返りに関する分析は今後行う。

・ 経年調査から

研究教科である社会科の知識・技能と思考・判断・表現を比較すると、思考・判断・表現で大阪市平均を大きく上回っている。授業改善への取り組みが、子どもの思考力等を育成に繋がった。

知識・技能 +2.6P

思考・判断・表現 +6.5P

取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】

・ 学校アンケートの「運動が好きですか」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合は、**低学年 89%高学年 80.5%であった。**

・

・ 縄跳びカードの活用や、縄跳び習慣を通して楽しみながら取り組めた。

・ ソフトボール投げの力を伸ばす取組を重点的に行えた。

・ ソフトボール投げの記録が春から秋にかけて伸びた。

・ 体力アクションプランやソフトボール投げを意識した取組を授業の最初に入れ込むことができた。

・ コロナ禍の体育制限が多い中でも、体力向上に向けた取り組みを続けられたらと思う。

・ 学級でみんな遊びをするなど、楽しみながら体力向上に取り組めた。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】

・ 健康週間を学期に 1 回、健康チェックの日を月に一回実施し、よりよい健康習慣が身につく児童をふやす。**→指標通り行えた。**

・ 校内アンケートにおける「手洗い、うがいをし、健康に気を付けていますか。」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする**→90%以上**

・ 年 2 回、各学級で栄養教諭が食育を行う。**→指標通り行えた**

・ 指標通り行うことができたが、「メディア時間を守っていますか」の保護者アンケートでは 65%と低いことや、朝ご飯、就寝起床についてのアンケートも低下傾向であることから、基本的な生活習慣を身に付けるや児童の健康保持増進については、課題がみえてきた。

次年度への改善点

取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

○ 基礎基本の定着のさらなる改善

・ ドリルと端末の併用

- ・ ICT の技能に関する系統的な指導計画の作成

○ 学級文庫の充実

○ 取り組みの共有

取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

○ 今年度の成果である「振り返り」に継続して取り組む。

○ ホワイトボードだけでなく端末を活用した対話を取り入れていく必要がある。

○ 発表に関する学校アンケート結果から

(低学年) 自分の思いを友達に聞いてくれていると思う。 77.7%→84.1%

(高学年) 自分の考えや意見は相手に受け入れられていると思う。 63.6%→66.7%

高学年の数値の向上

取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進させる力の育成】

・ 投げることに抵抗感がなくなり、投げる力もついてきているので、次年度も継続して行う。

・ 測定と練習ではボールが違うので、測定前は、ソフトボールでの練習が必要である。

・ 学期に 1 回、特に伸ばしたい項目について研修会をしていく。

取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進させる力の育成】

・ 朝ご飯、就寝起床、メディア使用について連動した指導や保護者への啓発を継続して行う必要がある。

・ 冬場の手洗いがもう少し積極的にできるように手だてを考える。(水が冷たすぎる)